

河部貞夫先生の「若者像」のデザイン。学園創立60周年を記念して同窓会、学園、生徒会により制作されたもの。



第22号

発行 2007(平成19年)3月10日

発行責任者 石崎 泰司

発行所 東京電機大学中学・高等学校同窓会
〒184-8555

東京都小金井市梶野町4-8-1

電話 0422-37-6441 (代)

人間が作り出してきた「もの」の形には、必ず理由がある —外観だけまねても良いものはできない—

電子ブックを使ってペーパーレス授業

東京電機大学理工学部情報社会学科助教授

矢口 博之

1 はじめに

みなさんは教科書を毎日かばんにつめて持ち歩いているでしょうか。まさか学校に置きっぱなしなんてことはないと思いますが、高校生ともなれば1日の科目数も多いし、教科書は厚くて、副教材、問題集、辞書と来れば、教科書を学校に置きっぱなしにしてしまいう気持ちもわかってきます。

2 電子ペーパーと電子ブック

電子ペーパーとは、鮮明な表示が可能である。表示装置自体は薄くて折り曲げることができる。

表示し続けるためには電力を必要とせず、書き換えのときにだけ電力を使う。

電子ペーパーは既に電車や駅などの広告や腕時計、そして電子ブックとして商品化されています。

電子ペーパーは既に電車や駅などの広告や腕時計、そして電子ブックとして商品化されています。

電子ペーパーは既に電車や駅などの広告や腕時計、そして電子ブックとして商品化されています。

電子ペーパーは既に電車や駅などの広告や腕時計、そして電子ブックとして商品化されています。

電子ペーパーは既に電車や駅などの広告や腕時計、そして電子ブックとして商品化されています。

電子ペーパーは既に電車や駅などの広告や腕時計、そして電子ブックとして商品化されています。

電子ペーパーは既に電車や駅などの広告や腕時計、そして電子ブックとして商品化されています。

電子ペーパーは既に電車や駅などの広告や腕時計、そして電子ブックとして商品化されています。

電子ペーパーは既に電車や駅などの広告や腕時計、そして電子ブックとして商品化されています。

電子ペーパーは既に電車や駅などの広告や腕時計、そして電子ブックとして商品化されています。

私たちは情報創造学研究室では、電子ブッ



(写真1) 今回ペーパーレス授業の実験に使用したソニーの電子ブックLIBRIe

ます。今回の実験で使用した電子ブックは、ソニーのLIBRIe(写真1)です。LIBRIeは6型の液晶表示電子ペーパーを搭載し、厚さ約13mm、重さ約190gの本体に最大500冊の本を収めることができます。

3 ペーパーレス授業の実験

電子ブックを教科書として使用するペーパーレス授業実験に参加した学生は理工学部情報社会学科の3年生7名でした。11週に渡ってゼミ形式の授業(写真2)を行い、10週目に電子ブックに関するインタビューを行いました。

教科書としては、斎藤嘉博著『メディアの技術史』(東京電

機大学出版局)を専用ソフトで電子ブック用に変換して使用しました。補足資料についても電子ブック用に変換して使用しましたが、紙のノートの使用は制限しませんでした。

10週目の授業終了後に行った電子ブックについてのインタビューでは、書き込みや、マーカーで印が出来ないこと、複数の文章間の行き来がしにくいこと、などソフトウェアの設計に由来する点に関する意見、電子ペーパーの表示について、画面切り替えの反応が遅い、モノクロ表示だったが、通常のパソコンよりも見やすいという意見が多く出ました。

4 電子教科書の問題点

教科書として電子ブックを使っていく上で問題となったのは、電子ブックには「ページ」という考え方がなく、文章の一部分を順次表示していく仕組みになっている、ということでした。ですから電子ブックでは表示する文字の大きさを変更し、老眼や弱視の人でも読みやすい文字を選択することが出来ます。しかしその代償として「200ページの7行目を見てください」といった指示が意味を持たなくなってしまうのです。つまり現状の「電子ブック」というのは、むしろ「電子巻物」と呼んだ方がふさわしいものであり、使い勝手においては、紙の本よりも退化しているとも言えます。

さらに電子ブックで問題となったのは、マーカーや書き込みの機能が無いことです。教科書に



5 おわりに

今回の実験を通じ、現状の電子ペーパー、電子ブックは期待に反してまだまだ紙や紙の本の代わりになるものではないということがわかりました。

と同時に、私たちが日頃親しんでいる紙や紙の本は「たいへん優れた特性を持ったメディアである」ということも再認識することが出来ました。

もちろん紙の本も、最初から優れた特性を備えていた訳ではありません。完成に至るまでには、長い時間と多くの人々のさまざまな知恵と工夫の積み重ねが必要だったのです。

この文章を読んだくれた人の中から紙の本を超える新たなメディアを創造し、社会や文化の発展に貢献する人が現れてくれることを期待します。

ではどうでもいい事ですが、電子ブックをデザインする人にとっては必要な知識だったはずで、紙の本に限らず人間が作り出してきた「もの」の形には、必ず理由があります。「もの」の本質を理解せずにただ外観だけを真似ても決して良い「もの」は出来ません。現状の電子ブックはまさにその典型と言えます。

ダイナミックに変化し続ける社会において活躍できる人になるためには、当面必要と思われる知識や技術を身に付けるだけでは不十分で、人間や社会の本質について学び、「もの」の歴史や文化に通じることも必要なのです。それが東京電機大学の教育理念である「技術は人なり」の意味するところなのです。

そういう人であれば、紙の本を超える電子ブックをデザインすることも可能かもしれません。本学は2007年に創立100周年を迎えます。知識の積み重ねを通して社会の発展に貢献してきた歴史ある学校で学ぶということはそれ自体が価値のあることなのです。

この文章を読んだくれた人の中から紙の本を超える新たなメディアを創造し、社会や文化の発展に貢献する人が現れてくれることを期待します。

ではどうでもいい事ですが、電子ブックをデザインする人にとっては必要な知識だったはずで、紙の本に限らず人間が作り出してきた「もの」の形には、必ず理由があります。「もの」の本質を理解せずにただ外観だけを真似ても決して良い「もの」は出来ません。現状の電子ブックはまさにその典型と言えます。

百周年記念式典まで6ヶ月

創立百周年記念事業推進本部

学校法人東京電機大学は、明治四十年九月十一日に東京神田の地に電機学校として産声を上げて、今年で百年を迎えます。

電機学校・中学・高校・大学・大学院を合計すると十六万八千名余りの卒業生を送り出しました。

ここで、創立百周年記念式典等の行事について、お知らせいたします。

なお、日本武道館で開催される記念式典並びに特別講演については、学園関係者(卒業生・在学生・ご父母・教職員)並びに招待者は入場できますので、是非ご参加ください。

〈創立百周年記念式典〉

・日時 平成十九年九月十一日(火) 十時

・場所 日本武道館

・特別講演(同十一時より)

・講師 宇宙飛行士 毛利 衛氏

・演題 「宇宙から見た生命のつながり」

・〈祝賀会〉

・日時 平成十九年九月十一日(火) 十三時三十分

・場所 帝国ホテル

この他に、中学・高等学校においては、卒業生を交えた創立百周年の記念行事を計画中です。詳細につきましては、あらためてご案内いたします。

学校だより

学園創立100周年記念事業の一環・中高初の和室（茶室）完成 表千家稽古場「松風楼」をイメージ 同窓会も「風炉」を寄贈



中・高の歴史の中で初めて設けられた和室は、100周年に向かう校舎改修のひとつとして新設されました。

初めて設けられた和室は、表千家稽古場「松風楼」をイメージして造られており、広間の茶室としての機能を兼ね備えた工夫がされています。水屋も広くとり内腰掛・蹲（つくばい）も用意され洒落た雰囲気を醸しだしております。

女子生徒も迎えましたので、部活だけではなく多くの生徒に改まったときにまごつかぬ行動が取れるよう、どのように活用していくかがこれからの課題です。



・同窓会から寄贈された「風炉」
（お湯を沸かす道具）



- 校舎内がさらにリニューアルされ、高等学校職員室3Fに新設され、66名1室の居室となりました。
- 1F 入試広報室・入試相談室（新設）保健室・カウンセリング室（移設）109A・109B教室（新設）
- 2F 中学教員室（移設25名）英会話教室（改修）

『大勢参加の幹事会から 同窓会発展への第一歩』

東京電機大学中学・高等学校同窓会会長 石崎泰司



同窓会会員の皆様、そして東京電機大学中学・高等学校教職員の皆様には、日頃から大変ご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

早いもので会長と言う大役を仰せつかって2期目に入り、自分なりに会長としての役目の重さに対し、鋭意努力している所でございます。

同窓会の発展は、多くの幹事の皆さんと意見交換し、より良い方向付けをすることが重要であると判断し、特に『この2年

は、多くの幹事に出席いただき、大きな成果を上げることが出来ました。各委員会の活動も以下のような

① 業務・IT化委員会においては、個人情報保護法に伴い、会員相互の連携がとりにくい中、新たな情報交換の場となるホームページのメンテナンスにきめ細かい対応をして、皆様との交流の場作りに活躍していただい

ております。各委員会だけでなく、教職員の皆様や、幹事・監査の方々にも幹事会をはじめ、各催し物にも積極的に参加していただき活発な意見交換が行われております。

これは『皆の力で同窓会を盛り立てて行こう』と、幹事一同が『同窓会とは、同窓生のための組織である』という原点を忘れず、行動していただいている賜物と感謝しております。

今年度は、『会員の皆様と一緒に同窓会作りを』をスローガンに、全力を挙げて頑張っております。

それは、会員の皆様がクラス会を積極的に開催し、併せて意見反映の場である総会に足を運んでいただくことが、最も重要と考えております。

総会への積極的な参加をお待ちしております。

校内行事

文化祭（第15回TDU武蔵野祭）

販売は、チケット制が導入され、とても好評でした。



・チアリーディング愛好会（8名）も参加。とても明るく、生き生きした動作が素敵でした。来年度は女子生徒が400名以上となるので、ますます活動も活発になることでしょう。

体育祭

今年のテーマは「安全第一」でした。開会式では毎年、同窓会会長から挨拶があります。



合唱祭

本年度から優秀クラスには同窓会から表彰されることになりました。



夢を実現するにあたって

高校二年組 瀧 平政典

私が公立中学に通っていたときは、廃部寸前だったため発表する場がとて少なく、体育館よりも大きなホールで吹いたことがありませんでした。なので、高校では大きなホールで吹いてみたいと思っていました。高校に入学し、この部活に入った時コンクールという吹奏楽の大会の中では最も大きな大会があることを知り、それは大きなホールで演奏し、しかもプロの人に

クラブ紹介 吹奏楽部

聞いてもらえるという夢のような大会でした。1年生の頃は、コンクールの様子を知ることになり、コンクールのことを考えたときに、「夢を叶えられる本気のチャンスだ」「夢が叶うならいい演奏をしたい」という思いが深まりました。コンクールは8月中旬にあるため、夏休みは1日中練習しました。また、直前には清里寮で1週間、先生を始めOBやOGのご指導の下で練習しました。練習だけではなく休憩時間には様々な遊びを通じて部活内の友好関係を深め、信頼しあえる仲間となることで吹奏楽でもっとも必要となる「団結力」を高めていきました。最終日の夜はみんなで花火をしたのですが、最後に線香花火をする時に部員が「最後まで落とさずに続けられたら願いが叶う」と言っていたので、

私は心の中で「コンクールで最高の演奏ができるように」と願い、そして線香花火は落とさず、そして朝が早く来たのかコンクールの当日は朝が早く来たにも関わらず、一番いい賞である金賞をとることができました。この賞は部長である私を信頼し、ついて来てくれた部員、最後まで私たちのために頑張ってくれた顧問の先生方やOB・OGの皆様、夏休みだけでも様々な協力をしてくださっている学校の先生方、そして私たちを温かく見守ってくれた両親に感謝の気持ちを胸にさらに飛躍していきたいと思います。



朋友に寄せて

東京電機大学中学・高等学校

校長 宮 本 治

治

黄金分割比を2対1として、人数では800名程度の男子、400名を

同窓会会員の皆様方には平素から母校の教育に格段のご理解と暖かいご支援・ご協力を賜っており、誠にありがとうございます。心から感謝申し上げますとともに、この場を借りて御礼申し上げます。

さて、学校を取り巻く環境は厳しく、少子化が叫ばれ定員割れを起している大学や中学校・高等学校が多い中で、本校は平成18年12月現在総計1306名（学則定員：中学校360名に対して386名、高等学校440名に対して920名）の生徒が在籍しております。このうち女子は中高合せて383名おり年々増加してきました。私が考える本校における男女の



少し超える女子を当面の目標としております。

又、平成17年の夏休みから18年の夏休み明けまで、生徒の長

期休暇を利用して校舎内のリニューアルを実施しました。お蔭様で校舎内がすっきり

明るくなり、かつ生徒の動線アクセスも良くなりました。結果として生徒達にも概ね好評です。主なところを述べますと、平成17年には生徒全員の机イス、ロッカーといった什器の交換、H R教室内および廊下壁等の塗り替え、廊下・ラウンジ・階段のフローリング、体育館床（アリーナ・サブアリーナ）の研磨塗り替え。18年には各教科の教員居室を提供していただき、先生方には中・高ひとつずつの大きい職員室に入っていた、これまで、スペースを生み出し、選

択授業のできる特別教室を増やし、和室も作ることができました。ぜひこの機会に一度母校を、お蔭様で校舎内がすっきりいまして、タバコは中高生には縁の無い、『大人の嗜好品』ですので、この機会に敷地内を完全禁煙とし、愛煙家の先生方を始め来校される方にはご協力をお願いしております。最後になりますが、今後とも生き残りかけ「評判の良い人気校」となるよう、先生方と一丸となり教育環境のより一層の充実に努め、意欲あふれる生徒の育成に尽力してまいりますので、母校の更なる発展のために、同窓会会員の皆様には一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。私の挨拶とさせていただきます。

校外行事

● 高等学校：修学旅行

(長崎：「平和記念像」、「ハウステンボス」)



◆ 中・高各学年の最大の校外行事が例年通り実施され無事終了しました。特に中学1年生は富士山麓での林間学校。入学して初めての宿泊研修となり不安もあったようですが、全員元気で終了する事が出来ました。

● 中3：修学旅行

(京都・奈良)



朝日に映えるゴールドに大感激の生徒たち

巨大な石舞台にびっくり！



● 中2 英語合宿



ブリティッシュヒルズ正面玄関にて

● さようなら清里寮

高校1年生の「清里教育キャンプ」も平成18年度で最後となりました。東京電機大学の清里の施設は閉鎖されます。思い出多き清里寮「さようなら・・・」



● 中1：富士山林間学校 (7/21~23)



みんな頑張って登りました。

クラス会開催補助金支給実績 (H18年度)

卒業年	クラス名
S29	定時制電気科電気機器課程卒クラス会
S26	定時制電気科電力課程 2 組卒クラス会
S36	全日制電気科電気機器課程卒クラス会
S27	定時制電気科電気機器課程卒クラス会
S23	電機第一工業学校第1本科電気科卒クラス会
S36	定時制電気科電気通信課程卒クラス会
H18	全日制普通科 3 組卒クラス会
S34	全日制電気科電力課程 2 組卒クラス会
H 3	全日制電子科 1 組卒クラス会
S26	全日制電気科電力課程 1 組卒クラス会
S41	定時制電気科電力課程 1 組、2 組、 電気通信課程卒合同クラス会
S42	全日制電気科 1 組卒クラス会
H15	中学校普通科A組、B組、C組卒合同クラス会
S26	全日制電気科電気通信課程卒クラス会
S31	全日制電気科電気計測課程卒クラス会
S48	全日制普通科 4 組卒クラス会
S43	全日制普通科 2 組卒クラス会
S37	定時制電気科電力課程卒クラス会
S20	電機第一工業学校第2本科電気科卒クラス会
S26	全日制電気科電気機器課程卒クラス会
S24	電機第二工業学校第1本科電気科 4 組卒クラス会
H 2	全日制電子機械科卒クラス会
S24	電機第二工業学校第1本科電気科 3 組卒クラス会
S42	全日制電気科 3 組卒クラス会
S39	定時制電気科電気通信課程卒クラス会
S18	電機第一工業学校第1本科電気科卒クラス会
S35	全日制電気科電力課程 2 組卒クラス会
S40	全日制電気科電気通信課程 2 組卒クラス会
H12	中学校A組、B組、C組卒合同クラス会
S27	全日制電気科電力課程 3 組卒クラス会
S34	全日制電気科電力課程 1 組卒クラス会

〈連絡先〉
社団法人東京電機大学校友会
・住所 千代田区神田錦町2-5-1 10号館5階
・電話 03-5280-3512
・FAX 03-5280-3562
・E-MAIL: kouyukai@jim.dendai.ac.jp
・URL: http://www.tduaa.or.jp/koyu/

同窓会総会は、ここ数年、学校のご好意により小金井キャンパス小ホールにて行われております。総会終了後には、学校主催による恒例の卒業生招待会も開催され、出席者も年々増加しております。昨年は、吉祥寺の中華飯店で招待会が行われましたが、今年は学園百周年の年にあたり、立川のホテルで盛大に行われます。年に一度の総会というだけでなく、先生方との交流やリニューアルされた小金井キャンパスの見学も合わせ、ぜひ、多くの同窓生のご出席をお待ちしております。



同窓会総会風景



大勢の参加で賑わう卒業生招待会

ぜひ総会及び卒業生招待会へ
学園百周年の年にあたり盛大に

同窓会（大学、中・高、電機学校）合同「会長・副会長」開催
百周年記念への寄付金は三同窓会一括で寄贈
ここ数年恒例となっている三同窓会合同の「会長、副会長」が、今年度は電機学校同窓会が幹事となり一月二〇日、開催されました。各同窓会ではそれぞれ活発に活動を展開していますが、校友会活動や学園行事を通じ、共通問題に對処しなければならぬことが多く、特に学園百周年記念事業がスタートしてからは、より緊密な連携が必要となってきました。今回の主な議題は、昨年、中・高同窓会が幹事となり提案してあった、学園百周年記念への寄付を各同窓会としてどういう形で行うかが審議されました。結果、大学同窓会の配慮もあり、同窓会が予算規模に合わせ、合理的な金額を出し合い、三同窓会として大学同窓会の秘書（中・高、電機学校同窓会）も出席し、来賓としてお招きする学園理事に目録を手渡すことに決定しました。来年は、大学同窓会が幹事となり開催の予定ですが、今後とも三同窓会が共同で行えるような同窓会員のためのイベント開催や、学園、校友会への協力によりコミュニケーションをはかり、同じ学園の卒業生ということで積極的に活発な活動を展開していきたいと考えております。

◆クラス会、OB会開催へ
補助金一万円を支給

クラス会を開きたいと思ってもクラス委員の事情で、なかなか開けないという方、また、仲間の住所が分らず連絡が取れないという方は、思い切って校友会に相談してみてください。事務局が色々なノウハウや補助金の支給等親切に対応してくれます。

・補助金の支給
一、中・高共にクラス会を開催するクラスに、補助金一万円が支給されます。（年一回、事前に申請）
二、クラブのOB会を開催する場合も、補助金が一万円支給されます。（年一回、事前に申請）
三、各卒業年度のクラス員名簿が校友会に用意されております。仲間の連絡先が分からない幹事さんは事務局へ請求して下さい。（二百円）

・会場探し
会場探しに困った場合、校友会館6階会議室（30名程度）を利用することが出来ます。飲食関係は「錦電サービス」でケータリングでき、予算も相談のつくれます。また、泊まりで開催したい場合、校友会幹事の宿泊施設を利用することもできます。

平成17年度事業報告と平成18年度事業計画

平成17年度事業報告

- 総会 於：小金井キャンパス平成17年5月14日
1. 平成16年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認
2. 平成17年度事業計画案、予算案の審議および承認
3. 幹事の改選と新任幹事の承認
4. その他
- 同窓会誌「朋友」2005年度版の発行（冊子版）
- 校友会のしおり発行への協力
- クラス会開催促進
- 同窓会業務IT化促進（HP保守・更新）
- 3委員会の活発な活動（朋友・しおり、クラス会促進、業務IT化）
- 同窓会運営規定集の作成
- 学園創立100周年記念事業への協力
- 同窓会幹事・教職員・クラス委員と懇談
- 平成17年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収
- クラス委員名簿改訂
- クラス会を開催するクラスに補助金として10,000円を支給
- OB、OG会を開催するクラブに補助金として10,000円を支給
- 入学記念品として、キーホルダーを贈呈
- 卒業記念品として証書鉢みの贈呈
- 新会員に同窓会活動について説明会
- 新クラス委員となる人と幹事との懇談会
- 準会員活動：合唱祭表彰、武蔵野祭優秀展示作品の奨励
- 体育祭、文化講演会、クラブ活動等の援助
- 卒業生招待会の協力
- 校外幹事会・参与会の開催

平成18年度事業計画

- 総会 於：小金井キャンパス平成18年5月13日
1. 平成17年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認
2. 平成18年度事業計画案、予算案の審議および承認
3. 幹事の改選と新任幹事の承認
4. その他
- 同窓会誌「朋友」2006年度版の発行（タブロイド版）
- 校友会のしおり発行への協力
- クラス会開催促進
- 同窓会業務IT化促進（HP保守・更新）
- 3委員会の活発な活動（朋友・しおり、クラス会促進、業務IT化）
- 同窓会運営規定集の作成
- 学園創立100周年記念事業への協力
- 同窓会幹事・教職員・クラス委員と懇談
- 平成18年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収
- クラス委員名簿改訂
- クラス会を開催するクラスに補助金として10,000円を支給
- OB、OG会を開催するクラブに補助金として10,000円を支給
- 入学記念品として、キーホルダーを贈呈
- 卒業記念品として証書鉢みの贈呈
- 新会員に同窓会活動について説明会
- 準会員活動：合唱祭表彰、武蔵野祭優秀展示作品の奨励
- 体育祭、文化講演会、クラブ活動等の援助
- 卒業生招待会の協力
- 校外幹事会・参与会の開催
- 同窓会設立50周年に向けての準備・検討（平成22年）

平成17年度 決 算 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)			
収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	1,508,400	事 業 費	1,203,671
3,600円×333名(高校)	1,198,800	総会費	169,470
3,600円×86名(中学)	309,600	教職員・クラス委員懇談会費	270,000
補助金	500,000	クラス会補助金	430,000
雑収入	70,219	クラブOB・OG会補助金	10,000
		同窓会誌制作発行費	257,210
		クラス会促進委員会事業費	14,000
		業務IT化委員会事業費	52,991
		同窓会運営規定集作成費	0
		会議費	363,452
		事務通信費	15,790
		諸 費	100,000
		予備費	0
		記念事業基金	100,000
小 計	2,078,619	小 計	1,782,913
前期繰越金	519,334	次期繰越金	805,040
収入合計	2,597,953	支出合計	2,597,953

平成18年度 予 算 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)			
収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
入 会 金	1,544,400	事 業 費	1,700,000
3,600円×346名(高校)	1,245,600	総 会 費	500,000
3,600円×83名(中学)	298,800	教職員・クラス委員懇談会費	300,000
補助金	500,000	クラス会補助金	500,000
雑収入	70,000	クラブOB会補助金	100,000
		同窓会誌制作発行費	200,000
		クラス会促進委員会事業費	50,000
		業務IT化委員会事業費	50,000
		会議費	500,000
		事務通信費	150,000
		諸 費	100,000
		予備費	269,440
		記念事業基金	100,000
小 計	2,114,400	小 計	2,919,440
前期繰越金	815,040	次期繰越金	0
収入合計	2,929,440	支出合計	2,929,440

編集後記

いよいよ本年は学園創立百周年の年となりました。高校も中学が併設され、男女共学となり、同窓会にも女性会員が登録されるようになりました。この機関誌「朋友」にも、若い中学生や女子生徒の写真が掲載され、男子高校時代に卒業されたOBの方たちにとっても、隔世の感があるのではないかと思います。

時代の変遷と中・高の歴史を継承し、同窓会活動、学園の情報を集い、会員に伝えていく「朋友」の役割は益々重要になっていくことと思います。今回トッピン、矢口先生から電子ブックを使い実際に授業を行った貴重な実験記事を寄稿いただいたことを感謝申し上げますとともに、原稿のとりまとめに校友会の荒木氏、学園関連の記事収集に見崎先生にご奔走いただいたことを改めてお礼申し上げます。

編集委員（串橋・野口・白田・矢部）